

敦賀市教育目標

ふるさと敦賀を愛し、知性に富み、心豊かで、健康な人の育成

＜学校教育目標＞

これからの社会をたくましく生きる力を持つ生徒の育成

敦賀市「知・徳・体」充実プラン

知：勉強して考える力
徳：内面を豊かにする力
体：たくましく生きる力
一人と協働する力

めざす生徒像

大きくなろう (広く豊かな心と知性のある生徒)

強くなろう (強靱な身体と精神を持つ生徒)

幸福になろう (夢や希望を持ち、その実現に向かう生徒)

重点目標

具体的な取組

成果指標

未来に向けて協働し 共生する社会力の育成

- ◎互いを尊重し高め合う集団づくり
◎困難に折れないしなやかな強い心の育成

◇学校サポートプログラム実践校としての取組

- ・ビ・ア・サポ-ト授業実践→1,2年各学級年間8時間
・現職教育→年間5回 ・小中合同研修1回
・学校生活全体でのビ・ア・サポ-ト実践の取組

- ・SASAでのソーシャルスキルに関する12項目の質問に対する「そう思う」(4段階の1)回答数の推移(平均)

Table with 2 columns: Year (SASA2016-2019) and Percentage (21.2% to 39.6%)

- ・校内アンケートでのソーシャルスキルに関する5項目の質問に対する「そう思う」回答数の推移(同集団での経年推移)

Table with 3 columns: Question content, H30年度, R1年度

- ・学校サポートプログラム2年目(3年計画)→学校生活の各場面での具体的ビ・ア・サポ-ト活動の実践推進によるソーシャルスキルレベルの維持向上が必要
・発展的実践として生徒個々のレジリエンス発達をめざすボジティブ教育の推進が必要

- ・行事、活動計画にビ・ア・サポ-トを柱としたPDCAサイクルによる実践で学級集団の向上を図る。
・ボジティブ教育の研修とOJTによって教員の指導スキル向上と生徒のレジリエンス発達をめざす。

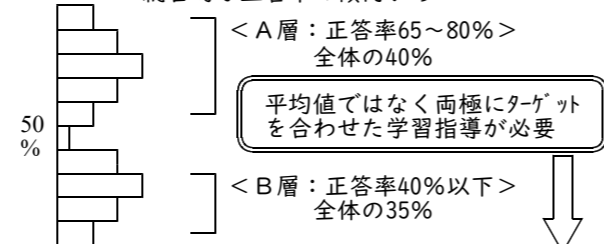
- ◎SASA2020でのソーシャルスキルに関する12の質問「そう思う」回答数平均40%以上
◎レジリエンスに関すると思われる3つの質問「そう思う」回答数平均プラス10%以上(現在30.5%)

- ①自分には良いところがある ②やらなければいけない事に最後まで取り組む
③難しい問題でも粘り強く解く

未来につながる 総合的な学力の充実

- ◎主体的・対話的で深い学びを具現する日々の授業実践
◎知識・理解・技能の確実な定着

◇SASA2019から見た課題 → 二極化への対応 <総合的な正答率の傾向から>



- ・朝学習、家庭学習を連動した5教科の基礎コンテストを通年で実施→基礎的基本的学力の定着
・習熟度・関心・意欲に応じた授業展開の工夫、発展的内容の設定・個に応じた課題の設定
→「主体的・対話的で深い学び」を追求

◇リーディングスキル(読解力)調査から見た課題 → 「読み取る力」の底上げ

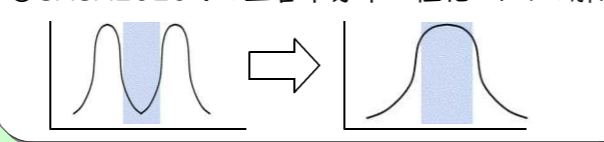
6分野の読み取り力のうち4分野以上の評価が10段階中1~5であった層(42%)の全員が上記SASA2019正答率分布の<B層>に属する

リーディングスキルとSASA正答率に一定の相関関係がある

リーディングスキルの向上を意図的計画的に取り入れた学習指導が必要

- ・教科書が「分かる、解る、判る」読み方の指導
・非連続型テキストの読み取りと読み取った内容や自分の考えを伝え合う学習場面の意図的設定
・読書の推奨(一人あたり図書貸出数R元年10.6冊→11冊を目標に)

- ◎SASA2020での5教科正答率を県平均レベルに
◎SASA2020での正答率分布二極化パターンの解消



未来を生き抜く 心身の安全と健康の増進

- ◎いのちを守り尊ぶ生き方への共感
◎「明日も登校したい」安心・安全な学校づくり

◇心の健康を保障するために

Table with 5 columns: Year, Absence cases, Resolution rate, School enjoyment, Future hope

- ・安全・安心で楽しい学級づくりを推進する必要
・不登校、いじめの芽を見逃さない情報収集と教員の適切かつ十分な指導支援が必要
・主体的であるための見通し(将来の目標)を持つ必要

- ・ビ・ア・サポ-トを基本とした学級集団作りの推進
・多面的な調査・支援体制の維持向上(いじめ調査、教育相談、個人懇談、SCの活用、教員研修等々)
・未来指向のキャリア教育を推進(高校調べを1年生から実施し3年生で未来に繋がる進路選択をめざす等)

◇身体を健康を保障するために

◎校内での怪我による病院受診件数の推移(のべ)

Table with 5 columns: Year, H28, H29, H30, R1

Table with 7 columns: R2 grade, Male/Female, R1 grade, Male/Female

◎SNSルールの遵守状況(R1年度:本人回答)
1年生:76% 2年生:74% 3年生:73%

- ・学校生活、日常生活での安全確認指導を強化
・SNSに関する自己管理能力の向上をめざす指導展開
・体力面で学年の特性に応じた弱点強化を意識した体育実技授業の実践と自己安全管理指導の強化

- ◎いじめ解消率100%、不登校新規発生ゼロを維持
◎「学校が楽しい」回答90%以上、「将来に夢や希望がある」回答90%以上の達成
◎体力テストで全学年が4種目以上県平均レベル達成
◎校内での怪我による病院受診10件以下
◎SNSに起因する生徒間のトラブル発生ゼロ

地域社会と共に進める 未来に開かれた学校づくり

- ◎地域の教育資産、人材との連携推進
◎4校区で協働する小中一貫校設立への取組

◇地域との双方向的で良好な関係を推進するために

- ①学校からの情報提供の充実(学校だより、HP)
・「学校からの情報提供は十分か」→肯定的回答89%
②「地域と進める体験事業」の取組
・つるが祭り山車巡行、夷子大黒綱引きの準備段階から当日・後始末まで参画(1,2年生)
③地域の諸活動への参加推進
・生徒一人あたり年間1回以上地域の諸行事への参加を呼びかけ →参加率146%

- ・学校だより、HPでの情報提供を強化継続
・つるが祭り山車巡行、夷子大黒綱引きへの生徒参画の継続と充実
・ボランティア精神の高揚を意図した道徳授業の強化

◇小中一貫校設立におけるの基盤づくり

◎新入生アンケート(H30→R1)
校区3小学校の交流機会は十分だった:56%→86%
体験入学等で入学への不安は消えたか:42%→53%
サポートプログラムによる授業は役に立ったか(R1開始):86%

- ・小中一貫校開設に向けたカリキュラム、行事、生活ルールの段階的な統一プログラムの策定と実践、中学校との接続を見通した情報提供と交流活動の推進
・地域の人材交流、文化継承の維持発展と、小中一貫校として地域との新しい関わりを協議、準備する仕組みづくり(家庭・地域・学校協議会と連携)

- ◎学校だより発行年間10回以上、毎週HP更新
◎合併直前のアンケート調査で「不安はない」との肯定的回答100%

業務改善のための取組

- ◎校内LANの活用、議題の精選等による情報伝達、事務処理の効率化と会議の縮減
◎ノー残業デーの設定
◎日課時程、部活動時間の見直し、部活動顧問の複数化による放課後の業務時間確保
◎学校行事の縮減と統合、考査など評価方法の改善と改革による業務の効率化
→月ごとの超過勤務80時間未満の100%達成